
宇宙人の要求

こめ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

宇宙人の要求

【Nコード】

N8167C

【作者名】

こめ

【あらすじ】

ある日、空に現れたおびただしい数の円盤。宇宙人の。はたして彼らの目的とは……。意外なオチのショートショート小説。

(前書き)

お気軽に評価のほどを

なんの前触れもなくそれは現れた。

空に浮かぶおびただしい数の物体。誰の目にも、宇宙人の円盤であることは明らか。

ただちにテレビ中継車がやってきて、全世界に放送される。

これから何が起こるのか。かたずを飲んで見守る人々。

やがて、変化がある。円盤からガツガツと、無機質な機械音。人々の頭の中へひびく声。

「地球の者を差し出せ。百人ほどは必要。ある星へ、連れて行くのだ」

同時翻訳した言語をちよくせつ脳に伝えているのだろう。仕組みは分からないが、素晴らしい技術。どの国の人々にも、宇宙人の言っていることは理解できた。

声はつづく。

「さもなければ、地球の者を全滅させる」

驚愕以外の、なにものでもない。たちまち全世界は騒然となる。

友好的な宇宙人も知れないとの期待は裏切られ、悪い予感の方が当たってしまったのだ。

「期限は三日。それまで我々はここで待機しておく」

すぐに各国の代表者が集まり、緊急会議が開かれる。

「地球の者を差し出せと言ってきているが、奴らの目的は何なのだ」「強制労働か、人体実験か、とにかくよいことに使うとは思えない」「ひとりの者が同意する。」

「そうだろうな。我が国ではあらゆる手段を講じ、彼らと連絡を取ろうとしたがムリだった。なしのつぶて。うんとも、すんとも言うてこない。後ろめたいところがあるのだろう。だいいち、連れて行く者たちにヒドイことをしないのなら、最初で目的を告げているはず。地球の者を全滅、という言葉に彼らの残酷さが現れている」

もうひとりの者が立ち上がった。テーブルをどんと叩いて、主張する。

「奴らの要求は飲むべきではない。決まりだ。理不尽に過ぎる。人を差し出してみる、エスカレートしていくぞ。次は二百人、今度は三百人。地球人は無条件で言いなりになると思われたら、おしまいだ。ぜったいに戦うべき」

その場の者がみな、うなづく。

戦闘態勢が整えられる運びとなった。

まずは、軍事力に優れたある国がミサイルを発射する作戦。最新型であり、今のところ世界でいちばんの強力さ。円盤を全滅とまではいかないが、かなりの機体を破壊できるに違いない。

敵に動揺が走ったところで総攻撃。各国が、力を合わせ。

世界中には兵器が充ち溢れている。ケチケチしないで撃って射つてうちまくればよい。これは、戦争だ。

翌日、その国の大統領が電話で命令を下す。

「やれ」

ボタンが押されると、基地からミサイルが上がった。物凄いスピード。円盤めがけ、一直線。

が、その当の円盤はミサイルが近付いても避ける気配すらない。避けようとしたところで、追撃機能も搭載しているのだが。

そして、ものの見事に命中。真ん中で爆音がとどろく。もうもうたる煙。

やったか、と誰もが目を凝らす。煙が、薄まっていく。

中から、元の位置に円盤が現れた。どれもこれも無傷。

ある一機からは緑色の光線が発射される。大統領の国の基地へ。たちまち巨大な穴があいた。あとには何も残っていない。消し去る、という表現がピッタリ。

円盤からは声。

「ムダな抵抗はするな。素直に人を差し出せ。期限はあと二日」
圧倒的な力の差。なすすべもない。科学力が違い過ぎる。戦った

ところで、犬死にするだけ。

ふたたび会議が開かれる。

「どうすればよいのだ。時間は、わずかしかない。奴らの弱点をさぐるのも、新しい兵器を開発するも不可能。要求を飲むしか、ないのか」

「うむ。仕方あるまい。人類が、滅ぼされてしまう」

あの国の大統領が言う。

「奴らほどの力があれば無理やりにも人をさらっていける。要求をしてきたのには、何か理由があるのでは。何度も繰り返したり、エスカレートしたりするとも限らない。一度きりで終わることだつて考えられる。理不尽なことに、変わりはないが」

みなは、あれやこれやと意見を出し合う。

かりに宇宙人へ生け贄を差し出すとすれば、どこの国から人を選ぶのか。みな、自分のところから出したくないのは当然。責任は、問われたくない。

国同士の力関係で弱いところから、というのも当然ダメ。のちのち国際問題化して、大変なことになる。どのような大義名分も、通るわけがない。

「ならば各国から一人づつ」という案が出る。公平に。これも、人選の壁にぶつかる。まさか国内においてクジ引きで決めることはできない。

合理的に考えれば未来ある者より、余命いくばくもない者の方がよかるう。生け贄には。しかし、人倫にもとる行為。

それは罪を犯した服役中の囚人も同じ。彼らにだって、人権はある。

死刑執行囚でさえ死ぬまでは人間。宇宙人の生け贄にするべき者ではない。そんな法律など、どこにもない。

かくして、ほとんど何もまとまらないまま運命の三日目を迎える。

円盤からの機械音。ひびく声。

「残り二十四時間。光線の発射準備に入る」

空に浮かぶ円盤の丸い下部がいつせいに光り始めた。緑色。

あの国の基地が一瞬にして消え去った恐怖が、人々の中へよみがえる。

もはや助からないのか。このまま、死んでしまうのか。泣き出す者、呆然自失とする者、神に祈る者。絶望の色が、濃くなっていく。と、ひとりの者が円盤の下へ歩み出る。慈善活動をおこなっている聖職者。彼女は言う。

「わたしを連れて行きなさい」

今まで円盤の様子を映していたテレビカメラがすべて、向けられる。

彼女は胸の前で手を握り合わせ、ひざまづいた。ためらいのない落ち着いた表情。全世界へ、放送される。

立派なおこない。自分の身を犠牲にして、人々を救おうとしている。なかなか出来ることでは、ない。

これが呼び水になったのか、どうなのか。次々に人がやってくる。一人、二人、三人、四人……。

ある小さな国の元首は胸を叩いて言う。

「ワシも、連れて行け。国民を守らなければならないのだ。国を血で汚したくはない。命など、おしいものか」

やってくる者たちは老若男女さまざま。職業も、国籍も。男女の割合は半々くらい。みな、人を救いたい一心。

二十四時間の後には、軽く百人を越えている。

今度は、円盤の下部の一点が白く光り出す。緑色に白。

何が起ころのだ。もしやあの時の光線よりも、もっと強力なやつなのか。

約束が違う。連れて行かれる者は、集まっている。気に食わないところでもあったのか。

人々は、肝を冷やして成り行きを注視する。

円盤から、集まった者たちへ次々と白の光線が当てられた。体が、宙に浮く。吸い込まれていく者たち。

やがて円盤からの声。

「我々が想定していたなかで理想的なかたち。星へ連れて行く者たちは、十分に集まった。繁殖に必要な条件を満たしている。任務完了。我々との別れ。永久に」

おびただしい数の円盤は雲の向こうへと消えてしまった。

狂喜する人々。抱き合い、肩を叩き合い、なかにはキスをする者も。命が助かったと、涙が止まらない。

宇宙人は言っていた。「我々との別れ。永久に」。もう二度と、地球にはやってこないのだろう。そういうふうしか、解釈できない。連れて行かれた者たちはどのような目に合うのか。それは分からないし、知りようもない。

しかし、彼らに対し感謝の念で溢れている。彼らは、身を呈して人々を救ってくれた英雄なのだ。立派な像と碑を作り、後世にその名を残していこう。

多くの人々がそう考えていた時、空がピカリと光った。

あっ、という間もない。発射された光が地球を緑色に包むと、そこにいた人々はみな死んでしまった。

円盤の中で宇宙人は言う。

「戦争ばかりしているあの星をそのままにしていたら、いずれ我々にも害が及んでいたことだろう。宇宙にまで憎しみを持ち込まれたら、困るのだ」

もうひとりの宇宙人がうなずく。

「うむ。しかし科学を発達させるだけの知能はあった。完全に、馬鹿というわけでもない。うまくいけば我々と友好関係を結び、利益になることだって」

「要求をしたかいがあった。三日間だけチャンスを与えたかいが。我々が本当の意味で望んでいる通りになった。それ以外なら、全滅させるしかなかったのに。人を差し出されても」人間たちを振り返る。「自己犠牲精神の持ち主ばかり。移住先の星で、争いごとを起す心配もない。平和な世界を作りあげてくれるはず。今回の件も、

教訓にして」

「そつだな。この者たちに期待しよう。そして、その子孫たちに…」

了 -

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8167c/>

宇宙人の要求

2010年10月8日15時06分発行